

入学前教育 「公共、政治・経済」
(主に福祉分野を学びたいと考えている人への課題学習)

この課題は、大学で学ぶ社会福祉に係る科目に関連する高校までの学びの復習と整理を兼ねています。題材は毎年、良問揃いの大学入試センターが出題する「公共、政治・経済」としました。でも「福祉」の勉強って、「人と人との関わり合いの技術を学び、身に付ける」ことなのでは？と思う人もいるかもしれません。実はそれだけではありません。ソーシャルワーク(社会福祉実践)を実践するためには、「価値」「知識」「技術」が必要なのです。皆さんがイメージする「援助技術」は実践の一部に過ぎないのです。たとえその援助技術が優れているものでも、利用者の人権を無視したやり方であったり、援護の代償として自身の権利が制限されたりすることはあってはならないことです。

さて、この課題で出てくる問題のいくつかは大学に入学してすぐに履修する「現代社会と福祉Ⅰ」(「社会福祉の原理と政策」以前は「社会福祉原論Ⅰ」と呼ばれていた)と密接に関連する内容となっています。「社会福祉の原理と政策」のねらい(目標)次のように定められています(厚生労働省)。

参考)「社会福祉の原理と政策」のねらい(目標)

- ①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。
- ②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。
- ③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。
- ④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。
- ⑤福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。
- ⑥福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。
- ⑦福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。

さらに、このような目標を達成するために、教育に含むべき事項(内容)も示されています。大学ではこのように明示された事項に準拠した教科書を使用し講義されます。講義内容を聴き、理解し、考察するには前提となる知識があるとより効果的です。大学では覚えるのではなく考えることが中心の知的作業の場であると考えています。十分に準備して入学してきてほしいと思います。

ところで、この課題のうちどの部分が入学後の学びに関連付けられるのでしょうか。少しだけ見ていきましょう。

○第1問-問2、問3では「基本的人権」に関する問題が出題されています。基本的人権の尊重は社会福祉の価値に係る重要なテーマです。大学では基本的人権の範囲や獲得までの歴史を他の科目でも取り上げて学習し、どのようなことが基本的人権の尊重となるのかを考えていくことになります。

○第1問-問2では負担(と給付)に関する問題が出題されています。科目「現代社会と福祉Ⅰ」や「社会保障論」のなかでも取り上げられています。特に国民負担率については、福祉国家類型を学ぶ際にも重要なファクターとなります。問3(年金制度)と合わせて大いに議論となる部分です。勉強すればするほど議論が深まります。

○第3問-問4では福祉国家、新自由主義に関する問題が出題されています。大学の授業では、福祉国家から福祉社会を目指すようになった歴史的展開、その間の社会経済の潮流として新自由主義、新保守主義について学びます。そもそも社会福祉は資本主義社会に存在する政策であることも学びます。

○第3問-問6では所得の再分配に関する問題が主題されています。再分配を厳格化すると格差が是正されていくといわれていますが、いまは格差が経済だけでなく、健康格差、教育格差など様々な場面で顕在化しています。このような格差をどのような政策を通じて是正していくかが課題になります。一緒に考えていくテーマです。

この課題は、これまでの学びの整理であるとともにこれから学ぶことの土台となります。課題に限らず、高校時代の公民の教科書をしっかり読んでおくことをお勧めします。